

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.8 2007年4月15日号

編集: editor@cna.jp 広告: pr@cna.jp 読者登録: <http://cna.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース項目

NEC エンジニアリング、H.323/SIP 対応、最大 10 地点多地点接続機能を搭載したテレビ会議システムを発売



TC-3100

NEC エンジニアリング株式会社(東京都港区)は、ビジュアルコミュニケーションシステム「VisualLink(ビジュアルリンク)」シリーズに、「TC-3100」を追加、4月11日発売。

TC-3100 は、同社の MediaPoint IP2 の上位クラス機種に位置づけられ、従来の VisualLink シリーズ (VisualLink TC5000) の後継にあたる。小型化・低価格化を図るとともに、映像や音声の高品質化及び新機能を搭載した。

TC-3100 は、H.323、SIP、通信速度は、64kbps から 1920kbps までサポート。暗号化は、独自方式と一般的にテレビ会議で採用されている AES 方式に対応。

映像符号化は、H.264 まで対応し、映像解像度には、4SIF(704x480)を新たに採用。最大 30 フレーム/秒。「テレビ会議の標準的解像度 CIF(352x288)では、画面上の文字ははっきりしていなかったが、CIF の 3.3 倍の解像度を持つ 4SIF を採用することで画面上の文字や映像がよりクリアに表示できるようになった。そのため、たとえば、黒板やホワイトボードに文字を書きながらのコミュニケーションもスムーズに行える。」(NEC エンジニアリング営業本部プロダクト営業部)

音声符号化には、新たに、G.722.1 Annex C (ポリコム社の音声圧縮技術[Siren 14]がベースになり国際標準化された符号化方式)を採用することで、スーパーワイドバンド音声(14Khz)にも対応。「従来の 7Khz(G.722)よりも 2 倍の帯域を使うため、よりクリアで臨場感のある音質を実現している。」(NEC エンジニアリング)

また、TC-3100 は、オプションの内蔵 MCU 機能を提供しており、最大 10 地点までの多地点テレビ会議が可能。「外部機関の調査データによると、通常の高地点接続会議では、2~9 拠点が一般的。それらのほとんどの高地点ニーズに対応できると考えている。たとえば、この

モデル名称と構成図	標準価格 (税込価格)	モデル名称と構成図	標準価格 (税込価格)
基本モデル(NCモデル) 	568,000円 (596,400円)	カメラ添付モデル(TCモデル) 	698,000円 (732,900円)
PCプレゼンテーション機能付きモデル(DNモデル) 	718,000円 (753,900円)	カメラ添付 PCプレゼンテーション機能付きモデル(DCモデル) 	848,000円 (890,400円)

TC-3100 を親機とし、MediaPointIP2 を子機に使用することで導入コストの低減が可能だ。」(NEC エンジニアリング)
提供モデルは、カメラある

いは PC プレゼンテーション機能によって、カメラなし基本モデル(NC モデル)、カメラ付モデル(TC モデル)、カメラなし PC プレゼンテーション機能モデル(DN モデル)、カメラ付き PC プレゼンテーション機能モデル(DC モデル)の4モデルを用意。本体以外には、カメラ付きなしと関係なくリモコンと外部音声マイク(AMU-3100)を標準提供。

DN モデル、DC モデルは、標準搭載の RGB 入出力端子を介して PC プレゼンテーション機能を使用することで、PC 画面を共有しながらテレビ会議が可能。この PC プレゼンテーションは、ITU-T の H.239 に準拠している。

本体は、3.0kg と軽量で、サイズも 330mm(W) x 215mm(D) x 48mm(H)とノート PC サイズ並の大きさ。映像、音声の入出力端子。

日本タンバーク代表取締役役に林田直樹氏が就任



日本タンバーク株式会社(東京都港区)は、4月1日付けで日本タンバーク株式会社代表取締役兼 TANDBERG 社バイスプレジデントとして林田直樹氏(写真左)が就任したと発表。

林田氏は、20 年以上にわたり、IT 関連を中心とした国際ビジネスに従事。1999 年から 2002 年まではポリコム株式会社の創設にかかわるとともに、ポリコム株式会社の代表取締役社長(2001 年ポリコムがピクチャーテルを買収後、ピクチャーテル株式会社代表取締役社長を兼務)を務め、また、同時期には、ビジュアル・コミュニケーション推進協議会の副会長を務め、業界の拡大に努めた。

「タンバークは、林田直樹のビジュアル・コミュニケーション

ン業界での経験、会社経営、組織運営、海外での豊富な経験と実績を高く評価した。タンバークの成長機軸である日本での市場拡大、販路拡大についてリーダーシップを発揮できる最も相応しい人材として、林田直樹氏を代表取締役として迎えた。」(TANDBERG)

就任にあたり、林田氏は、「ビジュアル・コミュニケーションは今後ユニファイドコミュニケーションや NGN、ブロードバンドの普及などを背景として今後大きく期待が持てる市場だ。日本のお客様にとって、タンバークのビデオ会議システムが業務効率の向上、生産性の向上のために欠くことのできないソリューションとなるよう、付加価値の高いビデオ会議システムの利用方法を提案していきたい。そして新たな事業を創造し、日本社会にとって不可欠な企業となるよう努力したいと考えている。」と抱負を語る。

林田氏は 1985 年中央大学商学部を卒業後、サンテレホン株式会社国際部を経て 1987 年より 12 年間オーストラリアに在住。その間、オーストラリア三菱商事(機械部)にて部長補佐、そして、セガ・エンタープライゼス・オーストラリア株式会社にてマネージング・ディレクターなどを歴任。帰国後、ポリコム株式会社代表取締役社長を務めた他、2003 年から直近まで、ネットギア株式会社代表取締役社長を務める。

TCB テクノロジーズ、 ビジュアルネクサス事業譲渡に向けた交渉を開始

多地点接続・アプリケーション共有が可能なソフトウェア型ビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」を開発販売する TCB テクノロジーズ株式会社(東京都港区)は、ビジュアルネクサス事業の譲渡に向けた詳細な交渉を、沖電気工業株式会社(東京都港区)と開始すると発表。

TCB テクノロジーズは、まずは、1999 年から米国 CuSeeMe のビデオ会議製品の日本語化販売を行っていたが、その後 H.323 に対応した国産のビデオ会議 PC ソリ

ューションの必要性を考え、Visual Nexus を 2003 年 6 月に発売。その後 2004 年 4 月にはイギリスに海外事業展開の拠点として子会社 Visual Nexus, Ltd. を設立することで海外にも進出、今までに世界約 10 カ国の 200 社を越える企業に導入された。

「しかしながら、ビデオ会議市場は、当初当社が予測したほどのスピードでは伸びておらず、一方で技術開発及び販促活動に関するコストを伴うため、販売開始以来営業利益段階で、未だ黒字化に至っていない。当社は、本製品の市場が将来的に大きく伸張する可能性を秘めていると確信しているが、現在の市場環境に基づいて再分析したところ、その実現にはまだ相応の時間と資本投下を要すると考える。それに対して、当社における現有の経営資源、各事業とのバランス、および投資回収期間などを総合的に検討したところ、ビジュアルネクサス事業は当社自身で執り行う許容範囲を超えるると判断した。そこでこの度、市場の拡大および事業展開の加速のために十分な規模に達している大手企業に事業をゆだねる検討を開始。沖電気工業と具体的な交渉を開始することになった。」(TCB テクノロジーズ)

TCB テクノロジーズと、沖電気工業とは資本関係、人的関係はないが、今回交渉先に沖電気工業を選んだ理由としては、以下のように TCB テクノロジーズは説明する。「沖電気工業は、IP コミュニケーション技術を以て、当業界に確固たる基盤を築いており、かつ十分な知名度と広範な販売網をはじめとした、豊富な経営資源を有している。同社の製品群に、Visual Nexus を加えることで、IP コミュニケーションにおける機能強化などのシナジー効果が見込めることから、同事業に対する譲受の意向表明があった。また同社の子会社である沖電気ネットワークインテグレーション株式会社(東京都江東区)は、Visual Nexus の認定販売代理店として数多くの導入実績をもっており、既に Visual Nexus が稼働しているお客様に対する保守・サポート面でも安心して任せられること、基礎体力のある同社に譲渡することが同事業を大きく飛躍させる鍵になること等を勘案し、今回事業譲渡の交渉を決定した。」(TCB テクノロジーズ)

両社間の交渉が成立すると、TCB テクノロジーズのビジュアルネクサスにかかわる開発、販売、輸出、サポート、保守等に関する事業が譲渡対象となる。TCB テクノロジーズでは、4 月 4 日に取締役会にて略式手続きにて譲渡を決議、4 月末を事業譲渡契約書締結、5 月 21 日を事業譲渡期日として交渉を進める。

(関連:CNAレポート・ジャパン Vol.5 No.7 2003 年 4 月 15 日、Vol.5 No.22 2003 年 12 月 30 日など)

NTT-IT、MeetingPlaza 電網会議室サービス香港ルーティングの運用を開始

NTT アイティ株式会社(神奈川県横浜市)は、同社が提供する多地点 Web 会議サービス「MeetingPlaza(ミーティングプラザ)電網会議室」での中国本土との接続性を大幅に改善する「香港ルーティング」を今月 4 月 10 日より運用開始した。

今回の香港ルーティングは、MeetingPlaza サービス提供拠点である大阪堂島との通信が香港経由となるような仕組みを開発。つまり、中国本土からの大阪堂島にある MeetingPlaza サーバーへの通信を香港にてリレーすることで、日本と中国との Web 会議サービスを提供する上での回線品質を向上させる目的がある。主に日本、中国間の Web 会議利用者向けのサービス。

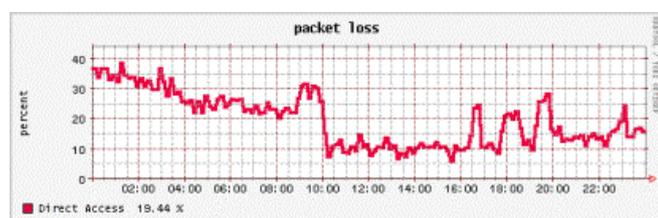
「当社は、2001 年 6 月から MeetingPlaza の提供を行ってきたが、日本と中国間での通信に MeetingPlaza を活用するユーザも多く、日中間でのインターネット回線品質の劣化は大きな問題だった。この問題へ対応するため、パケットロスなどの調査検討をして来たが、その結果、香港経由での通信が安定することを発見した。これにより中国本土との通信品質が改善され、安定した通信が利用できる。」(NTT アイティ)

NTT アイティでは、2007 年 3 月のある一日の MeetingPlaza サービス拠点から中国上海のある拠点へのインターネット通信品質(パケットロス)の実測値と、同地点への香港経由での同測定値を測った。その結果、直接の

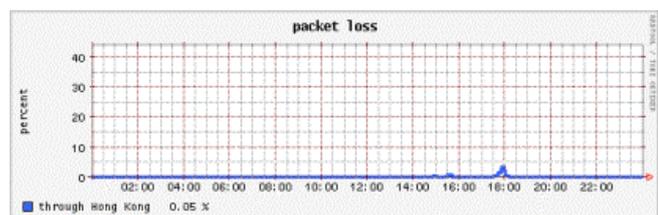
通信では、ビデオはほとんど通らず、音声も低品質だったが、一方香港経由では、QVGA(320x256)サイズのビデオも通り、音声も高品質であった。(下グラフ)

この香港ルーティングは、現在 MeetingPlaza サービスの利用者には、香港ルーティングを追加料金不要で提供する。MeetingPlaza ライセンスパッケージ購入者は、別途相談。香港ルーティングの提供目標としては、平成 19 年度として 100 接続。

NTT-IT によると、香港ルーティングについて発表後既に反響が大きいという。



直接通信した場合



香港ルーティングの場合

香港ルーティングによってパケットロスが激減し、通信回線が安定した。

NTT-AT、総合試験ツール「ProLab 3G-324M」を NTT ドコモに販売

NTTアドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、株式会社 NTT ドコモ(東京都千代田区)に、イスラエル RADVISION が開発した、3G 携帯電話機のテレビ電話相互接続性検証・解析をサポートする総合試験ツール「ProLab 3G-324M」を販売した。

「ProLab 3G-324M」の特長としては、(1)直感的な操作で使い勝手の良さを実現、(2)マルチプロトコル(SIP、H.323、NGN)とマルチメディア(H.264、MPEG-4、H.263などの映像コーデックおよび各音声コーデック)対応、(3)通話中の 2

台のテレビ電話のシグナリングとメディアを両端末に影響することなくモニタする「インタセプタ」機能、(4)ネットワーク問題の擬似機能、画像品質解析機能、(5)自動試験実施機能と自動結果評価機能、(6)既存試験環境と接続する XML/SOAP をサポート、(7)テレビ電話開始までの時間を大幅に短縮する標準プロトコル WNSRP、MONA (H.324 Annex K)をサポート。などが挙げられる。

NTT ドコモが採用にあたって評価した主な点としては、3G 携帯電話機テレビ電話の擬似(シグナリングとメディア)および H.223/H.245 のモニタ・解析機能が備わっていることや、IMTC*3/GCF*4 のテストケースがあるなど。

「NTTアドバンステクノロジーでは今後さらに、お客さまが高度な試験を短期間に簡易に実施できるよう、3G-324M 対応だけではなく、NGN 対応機能に関しても RADVISION と共に「ProLab」の機能充実を進める予定。」(NTT アドバンステクノロジー コミュニケーションシステム事業本部 ユビキタスコミュニケーションシステム事業ユニット VOCALNET 事業部門)

ProLab 3G-324M の価格は、500 万円(税別)から。

ゼッタテクノロジー、セキュリティ強化した Officede for Skype Ver.2 を発売

ゼッタテクノロジー株式会社(東京都千代田区)は、企業向け Skype 運用管理ソフト「オフィスデフォースカライブバージョンツール」を 4 月 16 日から発売。

Officede for Skype Ver.2 は、無料通話ソフト Skype を便利で安全性の高い内線通話システムとして利用することを可能とする運用管理ソフト。2005 年 10 月に発売以来、企業や自治体などに導入されている。

「Skype の安心利用により通信コスト削減や業務効率化が実現できたと大変好評を頂いている。」(ゼッタテクノロジー)

今回の Ver.2 は、従来の管理機能の強化とともに、主にセキュリティ面の強化を行っている。最近 Skype を対象としたウィルスの発生が報告されたが、今回のバージョンで提

供するセキュリティは、そのような Skype を狙ったウィルスに対しても万全の対策を行うことが可能。さらに、Skype の企業での利用用途にあわせて運用ポリシーの設定を行うツールを充実化させた。「Skype のセキュリティ対策や管理上の問題から導入をためらっていた企業の不安を解消し、ビジネス利用を促進できると考えている。」(ゼッタテクノロジー)

その他今回のバージョンで提供される新たな機能としては、(1)SkypeAPI 利用のアプリケーション制御。Skype に接続できるデバイスやソフトウェアを限定することができ、Skype を狙ったウィルスやスパイウェアの防止だけではなく、不用意なアドインソフト利用も防げる。(2)Skype のスーパーノード化を禁止。Skype のスーパーノード化を防ぎ、PC/ネットワーク帯域への負荷を回避。(3)Skype の起動制御。ユーザが利用中でも管理上、Skype を強制的に一斉終了させることが可能。(4)SkypeIn/SkypeOut 禁止。一般電話への発着信を制御できる。(5)Skype ビデオの禁止。Skype ビデオを制御することができ、ネットワーク帯域への負荷を回避できる。(6)Skype のグループウェア利用のポータル上にて、各クライアント専用のアドレス帳が作れる。

標準パッケージは、スターターパック(クライアント 20 ライセンス)20 万円(税別、以下同)。Web オプションは、20 万円。クライアントライセンスは、1 ライセンス 5,000 円、50 ライセンスパックで 22 万 5,000 円、100 ライセンスパックで 40 万円。(関連:CNAレポート・ジャパン Vol.8 No.32 2006 年 12 月 10 日など)

【海外 news】韓国 KPCOM 社系 SeeTown 社、HD テレビ会議で韓国テレビ会議市場の加速に期待

LifeSize 製HD対応のテレビ会議システムを販売する韓国の SeeTown 社(ソウル特別市漢南区)は、HD のテレビ会議システムで、テレビ会議システム市場の活性化に期待する。

SeeTown 社は、2005 年に、韓国の大手テレビ会議販売や多地点接続サービスなどを提供する KPCOM 社の子会社として設立。テレビ会議やウェブ会議に長年の経験のある人

材が立ち上げた会社で、漢南区の COEX(コーエックス)に隣接した地区に本社を持つ。現在は、LifeSize Communications 社の HD 対応テレビ会議システム専門の販売を行う。

HDテレビ会議システムは、「テレビ会議システムが目指すべき方向性だ。」と語るのは、同社の社長 John Shim 氏。同氏は、昨年夏に SeeTown 社にセールスディレクターとして入社。その後最近になり社長へ昇格した。MBA 取得者で、SeeTown 社に入社する前7年ほど会議システム関係のマーケット調査やコンサルティングを行ってきた、会議システムの専門家でもある。今回HDのテレビ会議システムで日本と韓国を平日午前中に公衆インターネットで接続し取材した。帯域はお互い 1Mbps での接続で、取材時間約1時間半の間パケットロスなどはほとんど起こらず、映像と音声は非常にクリアな状態で取材ができた。

韓国市場は、アメリカ、中国、日本などにくらべ小さな市場ではあるが、HD によって韓国のテレビ会議市場はにわかには活性化してきているという。「現在韓国市場は、テレビ会議やウェブ会議市場は活発になってきている。テレビ会議では、LifeSize を含め、ポリコム、ソニー、タンバーク、アエスラと各社テレビ会議メーカーのHD対応のテレビ会議システムが揃いつつある。ISDN サービスが国内全面的に終了し、ブロードバンドや企業での広帯域のネットワークの普及がHD化の後押しをしている。」(John Shim 氏)

SeeTown 社は、テレビ会議のHD化がもたらす可能性に確信し、LifeSize の韓国唯一のディストリビュータとして LifeSize と提携したという。

「テレビ会議システムは、20年以上の歴史がありかなり成熟した技術になってきているが、画質や音質においては十分ではなかった。韓国市場では、ポリコム、ソニー、タンバークが強い市場で、特にポリコムのロイヤリティは高いのが現状。しかしながら、HD のテレビ会議市場はこれから形成されていく新たな市場で、LifeSize は、業界で初めてHDに対応したテレビ会議をリリースした実績がある。十分勝算はあると判断している。すでに LifeSize の導入実

續も増えてきた。」(John Shim 氏)

どういったところで導入が始まっているのか。「韓国では、企業、政府、韓国軍、教育などから需要が見えてきた。大型導入案件も入りつつある。それに加え、通信回線と端末販売をパッケージにしたサービスを開始したいと考えており、現在関係企業等と交渉中だ。」(John Shim 氏)

ただ、従来のテレビ会議(SD)とHDテレビ会議の価格差については気になる。「従来のテレビ会議と、LifeSizeのHDテレビ会議の価格差は大きくはないと市場では受け止められている。それに加え、映像や音声の品質とその重要性について理解が広がっている。」とJohn Shim氏は語り、価格差はあまり問題ではないと指摘するとともに、今後のHDテレビ会議の急速な広がり期待する。



3月韓国ソウルで開催された次世代テレビ会議セミナーで講演するJohn Shim氏

同社の親会社であるKPCOM社は3月にソウル市内で次世代テレビ会議システムセミナーを開催。各社のHDテレビ会議システムや同社の新製品リッチマルチメディアソリューションである「uPlace(Unified Meeting Place)」などを披露。基調講演では、同社代表のSewoon Park氏が講演。同氏は、テレビ会議業界では、20年の経験を持つ。300人あまりが会場に集まった。また、John Shim氏(写真上)も講演。KPCOM社では、テレビ会議システムへの関心の高まりを実感しており、韓国市場でリーダーシップを取りたいと考えている。

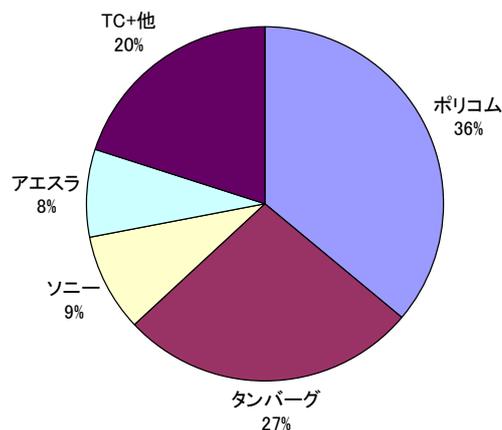
【海外 news】米 WebDialogs 社ウェブ会議名称変更と新バージョン発表

米 WebDialogs 社が提供する Web 会議システム「MeetingCentral(ミーティングセントラル)」と「EventCentral(イベントセントラル)」の名称を、「Unyte Conferencing(ユニイトコンファレンシング)」へと変更した。

同社は、音声、ビデオ、データ機能を統合したユニファイド・カンファレンシング・ソリューションの開発を今後も強化する。Unyte Conferencing シリーズの製品のひとつである「Unyte Meeting(ユニイトミーティング)」は、先月3月に「The Spring '07 version(スプリング'07バージョン)」を発表。

新しいユーザーインターフェイスに操作性を高め、ビデオ・音声配信機能の強化、プレゼンテーション記録機能の強化などが含まれる。70社とのパートナー契約を結び200のサービスブランドで同社のWeb会議Unyte Conferencingが提供されている。

【海外 news】米調査会社 Wainhouse Research 社、2006年10月-12月期テレビ会議市場統計発表

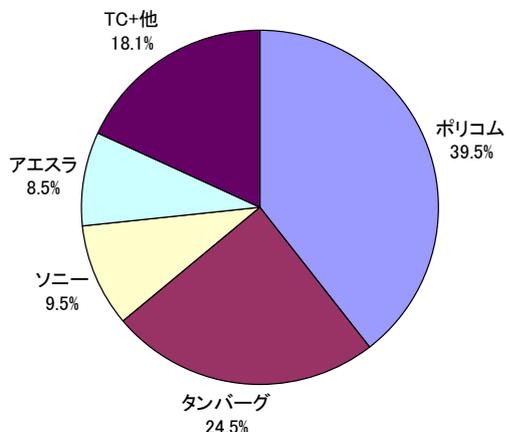


第4四半期シェア

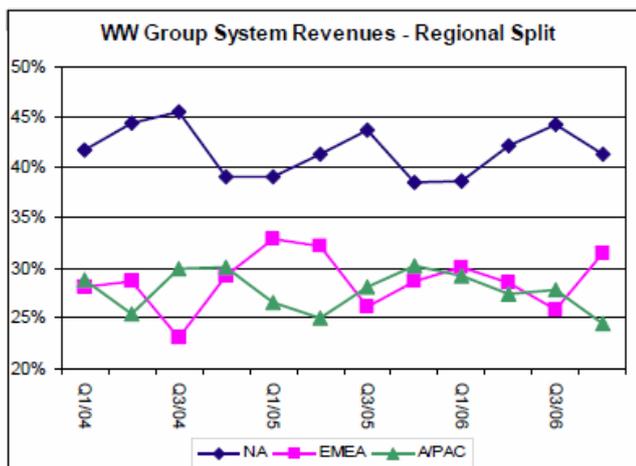
会議システム業界専門の米調査会社 Wainhouse Research 社が、2006年10月-12月期(第四四半期)のテレビ会議専用端末市場(グローバル)の統計を発表した。

まず、第四四半期をみると、ポリコムが端末出荷台数で

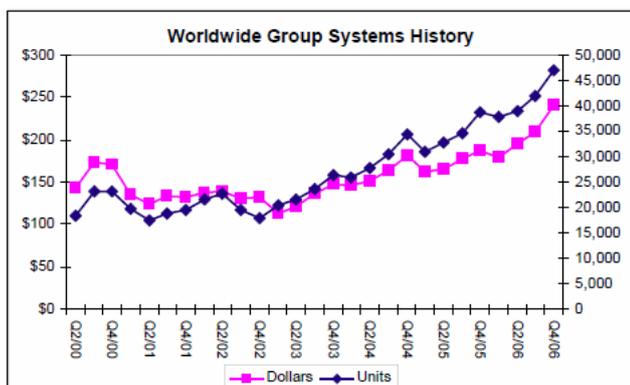
は、36%でシェア第一位を維持しているが、金額ベースで見
た場合、僅差でタンバークが首位になっている。



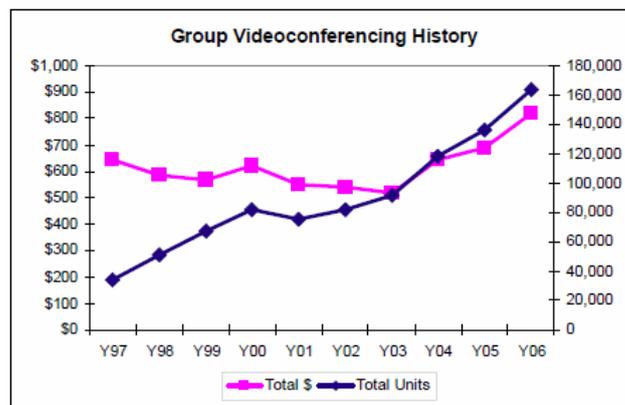
2006年通年シェア



北米、欧州中東アフリカ、アジア太平洋各地域推移



専用端末出荷金額（左）と台数（右）四半期毎推移



専用端末出荷金額（左）と台数（右）年毎推移

(情報掲載協力)



Wainhouse Research, LLC

<http://www.wainhouse.com>

セミナー・展示会情報

Polycom Day 多地点会議セミナー

日時: 4月20日(金) 13:30 ~ 15:00 (13:00 開場)

場所: ポリコムジャパン株式会社 セミナールーム

主催: ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.polycom.co.jp/event/070420/>

次世代コミュニケーションフォーラム

日時: 5月16日 9:00~18:20

場所: ウェスティンホテル東京(目黒)

主催: 日経コミュニケーション、日経 NETWORK

協力: 日経コンピュータ、ITpro

詳細: <http://ac.nikkeibp.co.jp/ncc/ncc07/>

編集後記

日々CNA レポート・ジャパンへのご協力、ご支援ありがとうございます。

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

次号では、海外専門誌の翻訳ニュースなども予定しております。

来月5月16日の次世代コミュニケーションフォーラムで、講演・対談させて頂くことになりました。

社内勉強会、広告サービスなど募集しておりますので宜しくご検討お願い致します。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本啓介